

## JMECCとドクターG

沼 尾 利 郎

### 1 はじめに

東日本大震災での被災体験とスーパー店内で心肺停止者に遭遇した昨年の経験から、救急対応の再トレーニングのためにJMECC (Japanese Medical Emergency Care Course, 日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会) を最近受講しました。本稿ではJMECCのプログラムとその臨床的意義を概説するとともに、JMECCの目的とも共通部分の多い「総合診療医 ドクターG」こと徳田安春先生 (筑波大学教授・水戸協同病院総合診療科) の講演内容 (当院開催) を紹介させていただきます。

### 2 内科救急・ICLS講習の動機

それは平成23年5月のことでした。NHO宇都宮病院が毎年行っている「看護の日」イベントを近くのスーパーで開催していた時、店内で心肺停止者が発生したのです。イベントに参加していた私や歯科医師・看護師などで心肺蘇生を行いました。救急隊が到着してからも反応は全くありませんでした。ちなみに、そのスーパーにはAEDは設置されていませんでした。東日本大震災での被災体験やこの時の経験から、災害医療や救急医療への対応充実や体制強化の必要性を強く実感したため、この度JMECCを受講した次第です。

### 3 JMECCとは

JMECCは内科医が心肺蘇生のみならず緊急を要する急病患者に幅広く対応できるように、日本救急医学会策定のICLS (Immediate Cardiac Life Support) を基礎に日本内科学会独自の「内科救急」プログラムを導入した講習会です。

表 JMECCの主要シナリオ

- |   |                |
|---|----------------|
| 1 | 胸痛と急性冠症候群      |
| 2 | 発熱と敗血症性ショック    |
| 3 | 急性呼吸不全と気管支喘息発作 |
| 4 | 上気道閉塞とアナフィラキシー |
| 5 | 意識障害と急性期脳梗塞    |
| 6 | 意識障害と急性薬物中毒    |

JMECCでの訓練は、いわゆるABCD (気道の状態の評価と確保、呼吸の状態の評価と処置、循環の状態の評価と処置、鑑別診断を含めた診断学的アプローチ) を基本にして、不安定な状態にある患者の安定化を目指しています。このようなアプローチは救急外来などに来院する重症患者の診療のみならず、入院患者の病態悪化に対する迅速な対応にも応用できるものであり、プライマリケア医と病院勤務医の両者にとって有用なスキルとノウハウです。プログラムの実際は、様々な不整脈や異常呼吸を再現できるシミュレーション人形を前にして、1チーム5~6人のチーム医療を重視した実技中心の講習であり、座学はほとんどありません。映像を使ったケーススタディもリアリティ満点の内容で、かなりの迫力がありました。

意外だったのは、私と同じような40~50歳代の参加者が何人もいたことです。総合病院の部長や健診専門の女性医師に受講理由を尋ねてみると、「最新の心肺蘇生法や救急診療時の身体診察法を一度きちんと勉強したかった」とのことでした。実際の臨床の場では蘇生を必要とする前段階にある内科救急症例に遭遇することが多いため、ポイントを絞った病歴聴取やバイタルサインの評価法、フィジカル診断に基づく治療開始などの実践型教育は、大変勉強になりました。

### 4 実践型教育とドクターG

実践型教育といえば、総合診療や臨床教育で高名な徳田安春先生に当院主催の講演会でお話を聴かせて頂く機会がありました。「臨床で遭遇する予期せぬ容態悪化に対応する能力を実践型教育によって習得する」ことはJMECCの目的ですが、これは徳田先生が日頃指導されている「守備範囲の広い総合内科の



養成」にも共通するポイントです。

徳田先生はcommon diseaseから専門的な疾患まで患者を総合的にマネジメントする力を研修医に身につけさせるだけでなく、卒前教育においても「診療参加型実習」を実践して多くの研修医や医学生から熱い支持を得ています。「卒前・卒後の臨床教育の充実が医師確保や地域医療にも貢献する」という1つのモデルを示して頂き、とても参考になりました

## 5 おわりに

「災害時や緊急時などの切迫した状況においてエラーのない診療を行うためには、JMECCのようなシミュレーション教育がとても役に立つ」ということが今回の講習を通じて身を持って実感されました。当院はこれまで医学生や看護学生を中心に多くの教育研修

生を受け入れており、平成23年度は医学生107人、看護学生2,410人(いずれも延べ人数)が当院で実習を行っています。また卒後研修についても骨・運動器やNST(栄養サポートチーム)・褥そう、結核などの領域の研修会を毎年定期的で開催しており、近隣の医療関係者が数多く参加しています。徳田先生の教育マインドをお手本にして、自己研鑽への熱意にあふれる医学生や若き医療者の要望に応えられるようなTeaching Hospitalを目指したいと思います。

